



令和元年度 日向市立細島小学校 自己評価及び学校関係者評価

学校経営ビジョン 夢や希望をもち、実現に向かって
粘り強く挑戦し続ける子どもの育成

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

| 重点指導項目 | | 目標（ゴールイメージ） | 評価内容及び結果 | | 自己評価 | 改善策 | 委員評価 | 学校運営協議会での意見 |
|---|-----------------------|--|---|---------------------------------------|------|---|------|--|
| 確かな学力の育成 | 思考力・判断力・表現力の育成 | 1 CRT算数「数学的な考え方」 →全国比100以上（全学年+5以上） 2 算数単元テスト「数学的な考え方」 →学級平均点が全国目標点+10%以上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、算数科学習において「考える力」が身に付いている。 【結果】 1 全国比:95.5 (H30:93.2) +5以上は2学年 2 全国比:100 +10の学年は2学年 →着実に力は付いてきている。 | 児童 2.7 保護者 3.0 地域 2.9 職員 2.5 | 2.8 | 主題研究を中心に各授業者が授業の改善を図り、実践し、振り返る。 単元テストの実施方法を工夫し、短時間で集中して取り組ませたり、活用力をみる問題を選定したりする。 | 3.0 | ・ 着実に学力が向上しているように見受けられる。 ・ 学校だけでなく家での勉強も大切であれば、「あらゆる学習塾」をもっと利用していけばよい。 |
| | 基礎学力の向上 | 1 CRT算数「知識・理解」「技能」 →全国比105以上（全学年+5以上） 2 CRT国語「読むこと」 →全国比100以上（全学年+5以上） | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、国語科、算数科学習において基礎的・基本的な学習内容が定着している。 【結果】 1 「知・理」全国比:100 (H30:101) +5以上2学年 「技能」全国比:100 (H30:100) +5以上2学年 2 「読」全国比:89 (H30:92) +5以上1学年 →昨年度と変わりがないが、学年による差がある。 | 児童 3.3 保護者 3.1 地域 3.0 職員 2.7 | 3.0 | 朝の学習で基礎・基本の内容を含んだ問題を継続的に取り組ませる。 国語は、音読、視写、漢字、ことばの定着に向けた授業改善を図る。 算数は習熟度別学習を取り入れ、個に応じた指導の充実を図る。 | 2.8 | ・ 着実に学力が向上しているように見受けられる。 |
| | 読書週間の確立 | 1 図書室貸出冊数 →全校で年間10000冊以上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、進んで読書に取り組んでいる。 【結果】 1 2/17現在:5100冊 (H30:2000冊) →学年によって偏りがあるが、昨年度よりかなり伸びた。 | 児童 2.6 保護者 2.3 地域 2.3 職員 2.3 | 2.4 | 多読賞、完読賞の児童を表彰したり、選書会を開いたりして読書への意欲付けを図る。 あさがおの会との連携を図り、図書委員による読み聞かせの場を設定し、読み聞かせの充実を図る。 学級文庫の入れ替えを定期的に行う。 | 2.6 | ・ 図書の貸出数が前年と比べると倍増しているが、目標値(1万冊)には達していないので、さらに工夫を図る。 ・ 借りているが、本当に読んでいるかは疑問である。 ・ 本のおもしろさを子どもたちに知ってもらうために私たちが努力する。 ・ 保護者に読書の宿題を出してもよい。 |
| | 家庭学習の習慣化 | 1 自宅学習提出率95%以上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、家庭学習の習慣が身に付いている。 【結果】 1 R1:3.3 (H30:3.0) →提出率はよくなったが、内容の改善が必要である。 | 児童 3.4 保護者 3.0 地域 3.2 職員 3.7 | 3.3 | 内容や量を考慮した課題を与え、課題が授業の中で確かめられるようにすることで、児童に課題ができた達成感を味わわせる。 通信や学級懇談での話題として取り上げ、家庭との連携を図る。 | 3.0 | ・ 「あらゆる学習塾」は、学習の環境が整っていて、ありがたかった。 ・ 宿題は提出しているが、家庭での勉強の仕方や見届け等において、課題は残る。 |
| ど の 会 豊 性 か や 道 徳 の 育 成 安 全 意 識 な | あいさつ、礼儀などの基本的な生活習慣の定着 | 1 富島中学校区統一アンケート、学校評価アンケートでH30年度比10%向上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、あいさつや礼儀等、基本的な生活習慣が身に付いている。 【結果】 1 R1:3.3 (H30:2.5) →かなりの向上が見られた。地域の協力も得ていく。 | 児童 3.6 保護者 3.3 地域 3.1 職員 3.0 | 3.3 | 職員が率先してあいさつをする姿を児童に見せ、あいさつする意味を教える。生活集会委員会が、あいさつ運動に取り組む。 学校だよりにあいさつに関する取組を載せ、家庭や地域の協力を呼びかける。 | 2.8 | ・ 登校時の挨拶はよいが、それ以外ができていない。 ・ 保護者の挨拶ができていない。 ・ 親の姿が子どもの姿に反映されている。 |
| | 主体性・向上心、自制心の育成 | 1 学級会、代表委員会の完全実施 2 学校評価アンケートでH30年度比10%向上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、主体性・向上心・自制心が育てられている。 【結果】 1 完全実施 2 R1:3.0 (H30:3.0) →主体的な活動を仕組む必要がある。 | 児童 3.3 保護者 3.1 地域 2.8 職員 2.8 | 3.0 | 係や委員会の活動で目標をもたせ、時期に応じてできる取組を考えさせ、児童に任せることで主体性を伸ばす。職員が常に見届けをし、実施後は振り返りまでする。 | 2.8 | ・ 地域でも、子どもたちに役割を与える機会をつくる。 |
| | 思いやりの心の育成 | 1 人権教育関連「ことばアンケート」でH30年度比10%向上 2 学校評価アンケートでH30年度比10%向上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、「思いやりの心」が育てられている。 【結果】 1 「ことばアンケート」は3学期に実施 2 R1:3.1 (H30:3.1) →言葉遣いの指導を繰り返す。 | 児童 3.2 保護者 3.4 地域 2.7 職員 3.2 | 3.1 | 担任が日常の生活の中で、良いところをほめて伸ばすことで思いやりの心を育てる。 道徳に関する研修を実施し、授業の充実や評価につなげる。 | 2.6 | ・ 昔は地域で教えてもらっていた。今は、地域で教えてくれる人がいない。 ・ 昔のよさを活かしていければよいが、保護者が納得するかが課題である。 |
| | 危険予知能力・危機回避能力の育成 | 1 危険予知・危機回避テストの実施(3回以上) | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、危険を予測したり、回避したりする行動ができている。 【結果】 1 R1:2.9 (H30:3.3) 避難訓練4回実施 →生徒指導部を中心とした繰り返し指導を行う。 | 児童 2.7 保護者 3.2 地域 2.9 職員 2.8 | 2.9 | 避難訓練では、児童に考えさせる場面を設定する等、内容を工夫し、危険を予測したり回避したりできる力の育成に努める。 日常指導において、きまりの意義を伝え、規範意識の高揚に努める。 | 2.8 | ・ 学校前の道路は、自動車の制限速度は30kmだが、守れていない。 ・ 不審者の情報もあったが、適切な対応がとれていた。 ・ 子どもだけの避難訓練を以前実施し、逃げる場所は知っている。 |
| | 責任感・勤労意欲の向上 | 1 学校評価アンケートでH30年度比10%向上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、お手伝いを進んで行い、与えられた役割に責任をもって行動できている。 【結果】 1 R1:3.0 (H30:3.0) → 家庭、地域との連携を図る。 | 児童 3.3 保護者 3.1 地域 2.4 職員 3.2 | 3.0 | 清掃指導週間では、各清掃場所の様子を評価し、良かった場所を知らせることで意欲付けを図る。 学級で係活動や当番活動を奨励し、児童が自ら動けるように指導する。 | 2.6 | ・ 地域や育成会の行事等において、子どもたちに役割を与える機会をつくる。 |

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

| 重点指導項目 | | 目標（ゴールイメージ） | 評価内容 (児…児童 保…保護者 職…職員) | 自己 評価 | 改善策 | 委員 評価 | 学校運営協議会委員の意見 | |
|---|--------------------------------|---|--|---------------------------------------|-----|----------|---|--|
| 基本的 生活 習慣 の定着 と 向上 | 基本的生活習慣の定着 | 1 「な・ぼ・は・ち・つ」チェック結果の 数値化 2 学校評価アンケートでH30年度比10%向上 3 早寝・早起き・朝ご飯に特化した家庭ア ンケートの実施 4 元気マン・早起きマンの日100日以上達成 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、「早寝、早起き、朝ご飯」が身 に付いており、忘れ物もない。 【結果】 1 「な・ぼ」の達成率は今のところ0 2 R1:2.7 (H30:2.8) 4 元気マン:106日 早起きマン:132日 (2月19日現在) →家庭への啓発と地域への協力を得る。 | 児童 2.6 保護者 2.8 地域 2.6 職員 2.7 | 2.7 | 2.6 | 「早寝、早起き、朝ご飯」については、学級 通信で知らせたり、学級懇談で話題として取 り上げたりできるよう、保体部が提案する。 健康観察時に「な・ぼ・は・ち・つ」のチェ ックを担当が行い、必要性和意義を子どもと 保護者に伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> メディア等で不登校児童が、その後、 成功した事案を取り上げて放送するこ とで、間違った認識が植え付けられる。 遅刻等の大きな要因にゲームがあげ られているが、家庭の責任が大きい。 保護者が子どもを送り出すことが大 事である。 |
| | 基礎体力の向上 | 1 体力テストH30年度比10%向上 (A:20%以上、D・E:15%以下) 2 泳力進級カード学年目標8割以上達成 (1年8級、2年6級、3年4級、4年3級 5年2級、6年1級) | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、泳力、体力が向上している。 【結果】 1 A:18% D・E:24% 2 達成率74% →年間指導計画の見直しをし、指導の工夫をする。 | 児童 3.6 保護者 3.5 地域 2.8 職員 3.1 | 3.3 | 3.0 | 本年度中に各学年で体育の単元配列につい て見直しを図る。 基礎体力を鍛えるための仕掛けを保体部が 体育館に設置し、体力づくりを継続できるよ うにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 持久走や縄跳び運動を通して、体力 を高めているが、持久力に課題が残る。 遊びや日常運動で継続して高めていく 必要がある。 登校時に車で送迎することも持久力 が伸びない要因になっている。 |
| | 「食」に関する自己管理能力の 育成 | 1 学校評価アンケートでH30年度比10%向上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、好き嫌いなく、バランスのとれ た食事がとれている。 【結果】 1 R1:3.1 (H30:2.9) →継続的に食育の授業を取り入れていく。 | 児童 3.3 保護者 3.1 地域 2.8 職員 3.2 | 3.1 | 2.6 | 栄養教諭と連携して、食育の年間計画をも とに、食育の授業を実施する。 食習慣についての啓発を学級通信や懇談等 で行う。また、学校保健委員会でも話題に取り 上げる。 | <ul style="list-style-type: none"> 最近、肥満の児童が多いようで心配 である。 食べる前に、給食の量の調節は行っ ている。 |
| こに地 と`域 が将の で来誇 きのり 生をも 児童方 つと の育考 成えも | 地域理解の深化と地域を愛する 心の育成 | 1 学校評価アンケートでH30年度比10%向上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、細島地区、日向市のことが好き である。 【結果】 1 R1:3.4 (H30:3.2) →「地域の先生」を積極的に活用したことで伸びた 総合的な学習の時間の見直しを図る。 | 児童 3.7 保護者 3.4 地域 3.4 職員 3.1 | 3.4 | 3.3 | 夏季休業中の研修で総合的な学習の時間の 内容を見直し、地域の素材を活用した単元を 各学年で実施できるように計画する。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の方を積極的に学習に活用でき ていることはとてもよいことである。 「総合的な学習の時間」において、 細島のよさを十分に生かし切れていな いところがある。内容の見直 しが必要である。 |
| | 社会的・職業的自立に向けた 「基礎的・汎用的能力」育成 | 1 学校評価アンケートでH30年度比10%向上 | 〈アンケート質問事項〉 子どもは、友だち関係がうまくいっており、 自分にできることはしっかりやれている。 【結果】 1 R1:3.2 (H30:3.2) →キャリア教育の充実を図る。 | 児童 3.3 保護者 3.6 地域 2.9 職員 3.0 | 3.2 | 3.2 | キャリア教育担当職員を中心に、授業で講 師として招聘した地域の方や「よのなか先生」 の記録を残し、次年度につなげる。また、外 部講師に話をさせていただくときに「なぜ、こ の職業に就いたか」という視点で話をしてい ただくことを打ち合わせでお願いしておく。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的に外部講師の活用を図 っていくとよい。 |

| | 項 目 | 結 果 | 職員 評価 | 改善策 | 委員 評価 | 学校運営協議会委員の意見 |
|---|---|--|----------|--|----------|--|
| 小中 一貫 職教 育に よ る す 評 価 | 1 グランドデザインは、自校の教職員で共通理解できている。 | 1 R1:2.8 (H30:3.0) →グランドデザインの共通理解を定期的にする。 | 2.8 | 共通実践について共通理解を図り、各部長 を中心に定期的実践の確認と見届けをして いく。 | 2.4 | <ul style="list-style-type: none"> 先生方も大変忙しそうなので心配であ る。 職員の評価が2.8ならば、地域、保 護者の理解はなお難しい。 |
| | 2 グランドデザインは、家庭や地域に理解されている。 | 2 R1:2.2 (H30:1.9) →グランドデザインの説明の機会をつくる。 | 2.2 | 4校（富島中、日知屋小、日知屋東小、細 島小）の共通実践を地域、保護者に伝達する 場を設定する。 | 2.2 | <ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、保護者や地域にグラン ドデザインを説明する機会をつくる。 |
| | 3 めざす児童生徒像の実現のために、富島中学校区内の学校で共通実践事項 がある。 | 3 R1:3.5 (H30:3.3) →それぞれの班の研究内容がよく分かった。 | 3.5 | 共通実践が4校の実態に合っているか確認 していく。 | 3.0 | <ul style="list-style-type: none"> 共通実践の内容、結果等について、 便り等で定期的に報告するとよい。 |
| | 4 小中一貫教育の取組により、めざす児童生徒像の姿に近づいている。 | 4 R1:2.9 (H30:2.8) →めざす児童像の具現化を図る。 | 2.9 | PDC Aサイクルを活かして、常に学期ご とに目指す児童像に近づいているか評価し、 | 2.8 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域にできることも実践内容 に組み込むとよい。 |